

<概要>

- １月２７日、国会でナスリ・アスフラ大統領の就任式が催された。アスフラ大統領の意向に沿って式典は小規模、簡素に行われた。
- ２５日、今期国会（任期２０２６～２０３０年）が招集され、国民党サンブラーノ国会議長を始めとした国会理事会が選出された。
- 就任に先立ち、アスフラ次期大統領は訪米し、ルビオ米国務長官、ラトニック米商務長官、グリア米通商代表らと会談を行った。その後、アスフラ次期大統領はイスラエルを訪問し、ネタニヤフ首相、サアル外相らと会談した。

<本文>

１ 内政・経済

（１）国会・市長選挙の結果発表

昨年１２月３０日に選挙管理委員会（ＣＮＥ）が国会議員選挙及び市長選挙の公式結果を発表した。

（ア）国会議員選挙

国民党：	４９議席
自由党：	４１議席
リブレ党：	３５議席
革新統一党（ＰＩＮＵ）：	２議席
キリスト教民主党（ＤＣ）：	１議席

（イ）市長選挙

国民党：	１５１自治体
自由党：	７６自治体
リブレ党：	６９自治体
革新統一党（ＰＩＮＵ）：	１自治体
無所属：	１自治体

（２）選挙裁判所（ＴＪＥ）の自由党ナスララ大統領候補による異議申し立て却下

１月５日、ＴＪＥは、ナスララ候補の異議申し立てを認めないと発表した。同候補は１万９千枚の集計用紙の再集計を求めて申し立てていた。

（３）与野党で分裂した国会の個別開催

８日１５時からレドンド国会議長が国会本会議を招集し、常設委員会による総選挙の報告書を論議の上、承認した。一方、野党側は、そもそも国会は野党側によって既に会期が延長されていること、また

同報告書は無効であるとして反発し、１４時から本会議を召集した。野党側国会では、レドンド国会議長と常設委員会による行動は憲法２７２条（国軍の権能）のうち選挙プロセスの保護を侵害しているとして、国軍にレドンド議長と常設委員会メンバーを国家反逆罪で拘束するよう要請する決議を採択した。

（４）閣議での国会による大統領選挙再集計容認

８日にレドンド国会議長が招集した国会本会議において、常設委員会が提出した総選挙に関する報告書内容を承認したことを受け、１０日、カストロ大統領は閣議を招集し、政府としても国会による総選挙再集計を容認する閣議決定を出した。

（５）ナスララ自由党大統領候補の事実上の敗北受け入れ

１２日、ナスララ大統領候補は２０２９年の次期大統領選挙に出馬することを発表し、事実上、今回の選挙の敗北を認めた。また次回は確実に勝利するため、必要な選挙改革を行う旨述べた。

（６）リブレ党活動家による再集計を求める抗議活動

１３日、リブレ党活動家が首都テグシガルパ市内外で同時多発的に道路封鎖を行い、テグシガルパ市長の選挙の再集計を求めた抗議活動を行った。このため一時首都周辺と市内の交通が麻痺した。また、１９日、リブレ党は２０日以降、国会で再集計を求める抗議活動を行うよう支持者らに呼びかけた。また、２１日朝８時から、市内のグアダルupes教会前から大統領選挙を含む今次選挙を野党の不正による選挙クーデターとして抗議するための平和的行進も呼びかけた。

（７）今期国会開会

２５日、今期国会（任期２０２６～２０３０年）が招集された。その中で国民党サンブラーノ（Tomas Zambrano）国会議長を始めとした国会理事会が選出された。

（８）２０２６年ホンジュラス大統領就任式

ア ２８日、国会で大統領就任式が催された。アスフラ大統領の意向に沿って式典は小規模、簡素に行われた。アスフラ大統領は式典内で３つの大統領令（政府専用機売却、一時輸入制度（ＲＩＴ）延長（Temporary Import Regime 輸出産業が中間財等を輸入する際の輸入関税等の免税）に署名し、直後にイスラエル・ＥＵ大使信任状奉呈を受けるなど、新政権の実務性をアピールしていた。

イ 就任演説では、地方分権の推進、政府の規模縮小、治安、保健、教育などを優先課題とする旨語った。

2 外交

(1) ベネズエラに関する新旧大統領の動向

ア カストロ大統領X (1月3日)

米国によるベネズエラ国民に対する軍事攻撃と、マドゥーロ大統領およびシリア・フローレス夫人に対する誘拐は、中南米およびカリブ諸国の主権と独立への挑戦であり、国連憲章と国際法に対する完全な無視であり、道徳的敗北でもある。我々はこの野蛮な行為を非難し、勇敢なベネズエラ国民、そしてマドゥーロ大統領夫妻に連帯の意を表する。帝国主義的植民地主義の再来を許すことはできない(以下省略)。

イ アスフラ次期大統領率いる国民党は、3日にマドゥーロ大統領が麻薬テロの容疑で米軍に拘束されたことを受けて、ベネズエラにおける「秩序ある平和的かつ憲法に即した移行」を提唱した。この米国によるベネズエラ政権移行は「国民の意思の自由な表現に基づき、民主的制度の回復を可能にし、ベネズエラ国民と地域に新たな和解、法秩序、進歩を開くものでなければならない」と声明で述べた。

(2) アスフラ次期大統領の米・イスラエル訪問

ア 米国

(ア) 米国务長官との会談

12日、アスフラ次期大統領は、ルビオ米国务長官と会談を行った。会談で、両者は、安全保障、移民、経済発展、制度強化などの二国間関係の重要課題について議論した。ルビオ国务長官は、ホンジュラス次期大統領が次期政権を米国の戦略的目標に沿ったものとする意欲があると強調した。

(イ) ラトニック米商務長官との会談

12日、アスフラ次期大統領は、ラトニック米商務長官と会談し、貿易、投資、経済協力について話し合った。同長官は、トランプ米大統領の指導の下、ホンジュラスを含む戦略的パートナーと双方で具体的な経済成長や雇用をもたらすことを目的とした互惠関係を促進していると述べた。

(ウ) 世銀、米州開発銀行 (IDB)、アメリカ・ユダヤ人委員会 (AJC) 訪問

13日、アスフラ次期大統領は、バンガ (Ajay Banga) 世銀グループ総裁、AJCと会合を行った。

(エ) 15日、アスフラ次期大統領はグリア米通商代表と会談を行い、二国間貿易協定の交渉の可能性について協議した。

(オ) 16日、アスフラ次期大統領はワシントンでベネズエラ野党指導者マチャド氏と会談し、政治的親和性、相互の尊重、地域における自由と民主主義の擁護に関する共通のビジョンにつき意見交換した。同氏をホンジュラスに招待した上で、ホンジュラスは同氏を歓迎する旨伝えた。

イ イスラエル

17日、アスフラ次期大統領はイスラエルに到着し、ネタニヤフ首相、サアル外相らと会談した。会談では両国の外交関係の復活を歓迎し、農業技術、安全保障、防衛に関する協力課題について議論した。ネタニヤフ首相は次期大統領アスフラを歓迎し、協力したい意向を示した。一方、アスフラ次期大統領は真の同盟国を見極めることがホンジュラスに平和と繁栄をもたらすと述べた。

<主要経済指標>

◇主要経済指標	2024 年	2025 年		
		1 0 月	1 1 月	1 2 月
インフレ率（前年同月比）	3. 9	4. 85	5. 09	4. 98
貿易収支（百万ドル）	▲6, 671. 4	—	—	—
輸出（百万ドル）	11, 082. 5	—	—	—
輸入（百万ドル）	17, 753. 9	—	—	—
外貨準備高（百万ドル）	8, 049. 0	9, 739. 8	9, 703. 3	10, 219. 1
外国からの送金（百万ドル）	9, 510. 2	—	—	—
為替レート（対ドル月平均）	25. 42	26. 34	26. 41	26. 48

（出典：ホンジュラス中央銀行）

（了）